

ASEAN グローバルプログラム に参加して

川崎 良祐
Ryosuke KAWASAKI
電子情報学科 2年

1. はじめに

平成30年8月28日から9月6日にかけて10日間、ベトナムのハノイおよびシンガポールにて日系企業ならびに現地企業への訪問、ハノイ工業大学の学生とのPBL (problem based learning) の実施さらにシンガポールで働く日本人ビジネスパーソンの方々との交流を行った。具体的な日程を以下の通りである。

表1 日程

8月28日	ハノイ着、オリエンテーション
8月29日	企業見学
8月30日	PBL開始
8月31日	PBL発表
9月1日	観光
9月2日	シンガポール着、企業見学
9月3日	南洋理工大学見学
9月4日	企業見学、ビジネスパーソンとの交流
9月5日	自由行動、出国
9月6日	日本着

2. 参加目的

今回、私がこのASEAN グローバルプログラムに参加した理由はいくつかある。まず私自身が海外へ行ったことがなくこのプログラムは海外を知るいい機会であると感じた為である。私は将来、海外で仕事がしたいと思う気持ちが強くなっており、そのためには、日本を出て海外での経験を持つておくことが大切と考えた為である。そうした中でこのプログラムがあることを知り、将来の夢を実現させる為に本研修への参加を決意した。次に、日本では当たり

前のことが海外ではそうでないこともあり、こうした海外での文化の違いを知りたいという興味があった為である。日本との違いを見つけることによってその国の良さに気付くことができるとともに、日本の良さについて再確認することができると考えた為である。また、日本の企業が多く進出している東南アジアを訪問し現地の方々から話しを聞くことができる機会を持つことに興味を持った為である。

3. 研修内容

本稿では表1に示す行程のなかで最も印象深かった8月29日の企業見学について記載する。

3.1 栄光堂訪問

私はハノイにある日系企業である栄光堂の工場見学をさせて頂いた。そこで、職員の労働時間について工場長の渡辺さんに質問したところ、1日中生産を続けることが効率がいいがベトナムでは深夜労働に対する理解がなされていない為に実施することができないんです、と説明して下さいました。従業員の意見を聞き効率よりも人を大切にすることが100年以上も続く栄光堂の良さであると感じた。また、工場の衛生管理を徹底するため製造工場に入るときには必ず30秒間除菌してから業務を開始する制度を設けたそうです。ベトナムでは業務管理に対する人々の意識が日本のそれとは異なるため、現地の方々の考えを理解し、ルールを設けることで日本の高い技術力を維持していることを知り、海外で仕事をするためにはその国の国民性を知ることが重要なのだと学んだ。現地法人代表の福永さんからは商品の売り方についても日本とは異なっており、日本では大型ショッピングモールを大勢の人が利用するがベトナムでは大型ショッピングモールでの売り上げが伸びているもののバイクなどから降りることなく簡単に立ち寄れるローカルな店を多く利用していることを教えていただいた。日本で用いている販売方法が海外では通用しない場合があることを知り、ビジネスをするうえではその国の流通を知ることの重要性を

理解した。また、こうしたローカルの店での販売が日本のものとは異なっていたので驚いた。それは、営業マンが商品整理、補充を行うということである。つまり、日本ではお店側がしなければならないことをベトナムでは販売元がしているということである。物の販売一つをとっても日本との違いがあることを企業訪問による説明によって情報を得て、街を歩いた時に見た風景から確かめることができた。

3.2 NTQ 訪問

ベトナムの企業である NTQ (nha toi quan) を訪問した。nha toi quan とはベトナム語で「家族」を意味する。NTQ はモバイルアプリや、業務系アプリなどを開発している。この分野は私の専門分野であることに加え、NTQ 社は 50 社以上が受注を断り続けた案件を実現させたという実績があることを事前に知っていたため訪問をとっても楽しみにしていた。職場にいる皆さんは私服であり、社員の方が一緒になってサッカーを観戦していたのでアットホームな会社だと感じた。また、若い人が多く活気にあふれており、そのような会社がベトナムの経済発展を促していくのだろうと思った。有志で勉強会を開いたり、語学学校に通ったりするなど従業員の意識が非常に高いと感じ、こうして従業員同士で高めあうことができる会社は素晴らしいと思った。ベトナムの企業である NTQ が日本とのアウトソーシングを行っているということ、従業員の中にはベトナム人だけでなく外国人を積極的に採用して多国籍な企業を目指していきたいと話されていた。そういったことを知り、グローバル化が進んでいることを実感した。自国だけをターゲットにするよりも日本などの海外も視野に入れることが当たり前になりつつあ



図 1 NTQ への訪問

る現状を感じた。こうしたグローバル化は日本企業でも同様であり、海外を視野に入れて活動することの大切さを感じた。

4. おわりに

今回このプログラムに参加し多くのことを見たり聞いたりする経験をすることができ充実した 10 日間を過ごすことができた。観光ではなく企業を訪れることや現地の学生との PBL を行うことなどの研修によって、日本では当たり前であることが、海外ではそうでないと気が付くことができた。うまくいかないこと、不安なこと、英語力のなさを痛感するなどしたが、これをそのままにせず今後活かしていきたい。本プログラムに参加する前、私にとって海外は未知のものであり、自分では推し量ることができなかった。しかし、一歩踏み出した結果様々なことを知りもう一度と海外へ行きたいと思うようになり、将来は海外で仕事がしたいと思うようになった。一歩踏み出して経験を持つことによってこの後の二歩目、三歩目を容易にすることができると思うようになり、これからは海外で働くという将来の夢に向かって努力していきたい。